

芦屋市子ども・子育て会議 第2回基準検討部会 要点録

項目	部会での意見
職員配置基準	<ul style="list-style-type: none"> • 近隣に比べて上乘せ基準をしているのは、保護者の立場からすると良いことだと思うし、保育士の立場からも必要なこと。一方で、待機児童や保育士不足の観点から検討していかないといけないことであるが、配置基準は変えていくべきはない。 • 西宮市が国基準よりも高い配置基準をPRしている中で、芦屋市が以前から実施している国基準より高い配置基準を下げるべきではない。 • 保護者の視点で考えると多くの目で見えていただきたいため、今までの基準以下になるのは避けていただきたい。 • 待機児童の保護者の立場からすると、国と同じ基準でもいいので預けたいという考えもあるのではないか。保育事業に使える財政面が決まっているとすると、今何が一番必要かを見極めて検討しないといけない。 • 保育士不足については、潜在的な保育士がいるのも現状だが、職場環境や待遇面が影響しているため、掘り起しができていない。 • 保育士不足については、短時間勤務で可能な保育士や、退職した保育士等に地域の中でボランティアとして働いていただく等、人材バンクを設けるといいのではないか。 • ボランティアで勤務してもらうことは良いことだが、経営者側からすると不安定要素があるため、毎日の保育には雇用関係を結んだ者が必要で、ボランティアとは分けて考える必要がある。
教育時間・保育時間等	<ul style="list-style-type: none"> • 自分自身が子育てしていた時のことを考えると保育時間が延びることは良いが、社会全体として、ワークライフバランスをもっと推進していかないといけないし、働きやすい日本をつくっていかないといけないため、いろいろなことを合わせ考えると今のままで良いのではないか。 • 延長部分については、保育所だけでなく、ファミサポなど多様な形態を充実させないといけない。 • 子どもの立場で考えると、30分でも長く、保護者との時間（スキンシップ）を大切にしないといけない。 • 芦屋市で子育てしやすい街になるよう、終了時間をどうするのかを検討しないといけない。 • 幼稚園では、必要な時に必要な子を受ける預かり保育がある。私立幼稚園の中には今年の4月からは7時30分から遅くは19時まで必要ならば預かることを考えているところもある。

芦屋市子ども・子育て会議 第2回支援事業部会 要点録

項目	部会での意見
地域子育て支援拠点事業	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が0歳，1歳で利用しない率が非常に高いので，内容の改善が必要。 ・2歳以降の子どもが行く場所がない。幼稚園の空き教室があるのであれば，そこを上手に利用できたらよい。 ・地域ごとでどのような利用率になっているのか，その地域でどのような子育て支援事業が行われているのか，それと呉川町との関係で，どこまでつながり合っていて支えているのかということを見る必要がある。
病児保育事業	<ul style="list-style-type: none"> ・事業実施場所が芦屋病院だけなので，そこまで連れて行くことが難しい。 ・年齢別の希望では，0歳から3歳くらいまでは「できれば利用したい」という方が多くなっているが，4歳，5歳で「利用したいとは思わない」という方が逆転している。4歳，5歳くらいになったら，もう諦めて，父母のどちらかが休んで面倒を見るということになっているのだと思う。
一時預かり事業	<ul style="list-style-type: none"> ・手続きの問題を見直さないと利用しにくい現状がある。どうかたちで行うのかは，事業展開の部分で考えることだと思うが，登録制を見直すことと，利用の多様化を図らなければいけない。 ・ニーズは確かにあるが，保育所の実態としては，待機児童がとて多く，一時預かりに専用の部屋や保育士を提供することができていないのかもしれない。
子育て短期支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・制度として，保護者の用事のために泊りがけで預かってほしいというニーズに答える制度にはなっていないのが現状。 ・児童養護施設がない現状で，今後市としてどのような対策をするかが課題。
放課後児童健全育成事業，子育て援助活動支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・留守家庭児童会に対する期待値の低さと，実際の利用状況の低さが気になる。 ・全員に聞いたらニーズは低いかもしれないが，ここ数年は利用者が増えている。充実させていかなければいけない事業だと思う。 ・保護者の就労支援に加えて，保護者の状況に合わせたカバーをしていくことで，留守家庭児童会を充実させないと子どもたちの行き場がなくなってしまう。 ・年齢の違う子どもたちが放課後に集まり，遊んだり，学んだりしている。指導員という大人とも関わり，いろいろな経験を積んでいく場である。そのような視点からも充実していただきたい。 ・留守家庭児童会の子どもはコミスクに途中からは来られない。その辺りの融通が利くようにならないと，留守家庭児童会にしか行けないことになってしまう。 ・留守家庭児童会に行かせながらコミスクも利用したが，「行けない」というよりも「行くのはいいが帰れない」のが現状。
その他の地域子ども・子育て支援事業等	<ul style="list-style-type: none"> ・親子の居場所，拠点をできるだけ地域の身近なところにしていきたいと思う。 ・芦屋市には他市のような児童館がないのが現状。どこかに大きなものを1つ建てると，その地域の方だけの利用になるので，小さいものがサテライト的にあれば，多くの人が行きやすくなると思う。